



みらいえで昔ながらの餅つき体験

正月の風習を通して親子が触れ合う機会をつくらうと、西脇パパサークルJAOと西脇ライオンズクラブなどが開いた餅つきのイベントに親子連れ14組53人が参加。メンバーに教わりながら、きねと臼を使う昔ながらの餅つきを体験しました。

体験後は、きなこ餅やあんこ餅などにして全員で試食。つきたての餅は格別のように、子どもたちは「おいしい」と、笑顔で頬張っていました。

〔1月14日／みらいえ〕



甲斐野投手が母校訪問—後輩と交流

プロ野球の甲斐野央投手が、母校の黒田庄中学校を訪問。野球部の練習に参加し、投球を披露したり記念写真を撮ったりして部員と交流しました。

甲斐野投手は東洋大姫路高校、東洋大学を経て、平成30年のドラフト1位で福岡ソフトバンクホークスに入団。初登板初勝利を挙げ、通算160試合に登板し救援陣の一角を担ってきました。今季は埼玉西武ライオンズに移籍し、新天地での活躍が期待されています。〔1月5日／黒田庄中学校〕



阪神・淡路大震災から29年—命を守る備え学ぶ

阪神・淡路大震災から29年を迎えた1月17日、市内の小中学校は追悼行事や防災学習を実施しました。

兵庫県教育委員会の震災・学校支援チーム「EARTH」のメンバー42人が重春小学校を訪問。全クラスで開かれた防災学習で「災害の発生を防ぐことは難しいけれど、被害を減らすことはできる」などと、児童たちに災害への備えの重要性を説きました。その後、児童たちは避難訓練に臨み、校内放送に従って身を守りながら校庭に集まりました。

また、この日の学校給食の献立は、炊き出しの定番である豚汁のほか、大きな焼きのりを使ったおにぎりとミカン。断水で手洗いができない状況を想定し、子どもたちはのりの上にご飯とふりかけを乗せ、のりが入っていた袋を使って上手におにぎりを作りました。



個性光る作品並ぶ

「第39回西脇市子ども造形作品展」に、子どもたちが制作した作品約千点を出品。創意工夫を凝らした絵画や工作、工芸、デザインの作品が並び、家族連れの目を楽しませました。〔1月20日～22日／市民交流施設〕



正月遊びで友達と対決

「新年はこどもプラザと図書館でスタートしよう！」と題した新年イベントで、子どもたちが正月ならではの遊びを満喫。用意された郷土かるたやすごろく、だるま落としなどで、友達と競い合いました。〔1月6日／みらいえ〕



真っ赤なイチゴ味わう

今季のイチゴ狩りの解禁を前に、篠田いちご園の篠田重一代表が芳田小1年生をイチゴ狩りに招待。「楽しみにしていた」と話す児童たちは、大きなイチゴを見つけては、次々に口に運んでいました。〔1月12日／篠田いちご園〕



池田さんが手掛けた映画解説

西脇市出身の脚本家・池田政之さんが手掛けるコメディ映画「どっちが審査員？（仮）」の関係者向け試写会を開催。出演したエキストラなどが参加し、池田さんが見どころを解説しました。

作品は十数年前に描き上げた脚本が原作。市内の施設や飲食店などで撮影されました。映画は今年の公開予定。〔12月27日／市民交流施設〕



新年の決意新たに

西脇市と西脇商工会議所は「新年に集う会」を開き、出席した市内の各種団体や地域の代表者ら約150人が新年のあいさつを交わしました。

西脇商工会議所の矢納利夫副会頭は「経済活動を通して地域の発展に貢献したい」などと決意を新たに、地域発展へ力を結集することを誓い合いました。〔1月5日／西脇ロイヤルホテル〕